//

いわて マナビィ マガジン

No.141　　2017. 8.10

//

ここ数日、涼しくすごしやすい日々ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、今回は、センター情報と県生涯学習文化財課地域連携担当からお伝えします。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

センター情報

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

昨日（8/9）に当センターで実施しました「学校と地域の連携・協働のための研修会」についてお伝えします。

台風５号による影響により７名の方々の欠席がありましたが、予定どおりの内容で実施することができました。

まず、生涯学習文化財課地域学校連携担当 千葉主任社会教育主事から「学校と地域の連携・協働に向けた岩手県の方策について」の説明がありました。

〇教育改革や地方創生の動向について
〇岩手県の基本的な考えについて

その後、一戸町の鳥海小学校の南　隆人校長先生から自校の学校支援地域本部の取組についての事例を発表していただきました。

自校の地域課題として、下記の点を挙げられていました。

〇地域住民の意識の分断等により、地域コミュニティが地盤沈下
〇鳥海中学校の統合等により子どもを取り巻く教育環境の劣化が進行
〇自己肯定感を持てない子ども達の出現

南校長先生は、この３点の課題には相関関係があるのではないかと考え、その課題を解決するために、学校支援地域本部事業を導入し、学校・ＰＴＡ・地区振興会の３者による学校づくり「心のふるさとづくり」の取組を始めたそうです。

取組内容は、「ふるさと学習の一環で全校児童による稲作活動」「ＰＴＡと振興会が地域を巻き込んで開催した鳥海夏祭り」等を挙げて、その様子を写真等で示し、詳細に説明がありました。

発表の後は、午後の講演講師でもある玉川大学客員教授の吉田和夫氏から助言をいただきました。
〇地域・学校等が子ども達に何かできるかを考える。
〇地域住民は今後も関われるが、教員は数年で転勤することになる。
〇地域住民と教員がうまく交わりながら学校支援地域本部事業を推進していくことが大切である。
〇発表の中にあった「失われる家庭と地域の教育力」はまさしくそのとおりである。家庭をみんなで支えなければならない。
〇地域のあるＮＰＯ、老人クラブ等から知恵を借りて子ども達の心にしっかりとしたふるさとを植えつける必要がある。
〇今日の事例発表からその方法論が理解できたのではないか。
〇各市町村において、この情報を共有できる環境づくりにも期待したい。

午後は「みんなでつくろう『スクール・コミュニティ』～手をつなぐとこんないいことが～」と題して、吉田氏から講演いただきました。
冒頭に「今、学校において何が大変であるか」についてワールドカフェ方式で交流しました。
講演内容は以下のとおりです。
〇各種データから読み取れることとして家庭教育が重要であること
〇学習指導要領改訂の方向性、次期学習指導要領や授業改善のキーワード等、学校教育の質的転換が求められていること
〇児童・生徒の成長が地域の成果であること
〇地域・保護者は縦糸（長期的展望あり）、教職員は横糸（短・中期的指導の成果）であり、縦と横の織りなす布のような学校が地域の人・地域を生み出し、創る良さを受け継ぎ、より良く改革すること
〇コミュニティの中核となる学校を「地域の中に創る」ことが大切であること
〇「コミュニティ・スクール」から「スクール・コミュニティ」へと何もかもが学校に任されてしまう現実から脱却していくこと　等

事例発表や講演は、本県における地域と学校の連携・協働を促進するためのヒントとなりました。

参加者の皆様が、今回の研修会の内容を持ち帰っていただき、それぞれ

の地域の実情に合わせた実践が行われ、学校と地域の連携・協働が促進されることを期待しております。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

県教育委員会事務局生涯学習文化財課地域連携担当から

～「直ぐになれます地域の教育者」～

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

先日、スーパーの駐車場で小学 6 年生の息子が知らない白髪の女性から声をかけられ、笑みを浮かべながら軽く会釈をしていました。

私　「今の方だれ？」

息子「ちょっとね。」

私　「なんで知り合いなの？」

息子「…いつも、朝、声をかけるおばちゃんだよ。」

私　「どこで？」

息子「いろんなところ。おばちゃん、散歩しているから。」

私　「へえ、そうなんだ。」

私も会釈をし、その方も笑顔で応えていただきました。

私の知らないところで、息子は地域の方に見守ってもらっているのだなあと実感。親としてありがたいことです。

このようなことは、県内のどこにでもある日常の一コマです。

夏休みの今、子ども達の生き生きとした表情が新聞紙上を賑わせています。

キャンプや地域のお祭り、体験活動など、日頃なかなかできないことを楽しんでいる姿をみるにつけ、企画・運営に携わる方々の御努力には、ホントに頭が下がります。

学校の先生でもなく、親でもない地域の大人と触れ合うことは、必ず子ども達の心の中に「何か」が残るはずですね。

さて、先日「2017 全国コミュニティ・スクール研究大会 in 岐阜」に参加してきました。意見発表で岐阜市の早川教育長が「地域の教育者の自覚」として子ども達と一緒に活動している地域の方の自覚を初級、中級、上級とした興味深い視点を話されましたので紹介します。

①初級

・大人から先にあいさつする。

・「さすが」「惜しい」「期待しているよ」「好感度高いよ」と声をかける。

②中級

・「友達と仲良くしてね」「先生の言うことをしっかり聞いてね」「いじめている場面にであったら止めるのだよ」と生活指導的な言葉かけをする

③上級

・「今日の友達のどんなところが素晴らしかった？」「どうしてそう思うの？」と思考を促す問いかけをする

息子が声をかけてもらったように、県内では初級の方は大勢いらっしゃいます。地域行事等運営している方は、②中級、③上級の自覚が既にあるかと思います。

残り少ない夏休みです。地域の子ども達に出会ったときは、まずは声掛けをしてみてはいかがでしょうか。

県教育委員会ではこの４月から生涯学習文化財課内に「地域学校連携担当」を新設し指導主事を配置しました。学校と地域両方から地域の子どもを育む取組を進めるよう各種関連情報を発信します。
ご期待ください。

♪お知らせ

「地域とともにある学校づくり推進フォーラム岩手大会」の開催決定！
奮って御参加ください。

●期日　平成２９年１１月７日（火）

●会場　盛岡市　アイーナ

●内容　行政説明、事例発表、パネルディスカッション

※お問い合わせはお近くの教育事務所までお願いします。

【生涯学習文化財課：ＣＫ】

▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼

このメールマガジンは、県内小・中学校、義務教育学校、社会教育関係者及び生涯学習・ 社会教育に関心を持たれている登録者の皆様に無料で配信しています。 ご意見・ご感想、登録・登録解除は下記アドレスにご連絡ください。⇒　E-mail；takashi-kuji@pref.iwate.jp

メルマガのバックナンバーをセンターＨＰ「まなびネットいわて」で閲覧できます。⇒　http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/
左下の「発行物・刊行物」＞「いわてマナビィマガジン」をクリック

▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼

発　行：岩手県立生涯学習推進センター　（花巻市北湯口 2-82-13）
編　集：久　慈　　孝